ようこうだより９月

令和５年９月６日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森
ようこうこども園

園長　日浦信介

8/25（金）～26（土）、今年も年長ひかり組のお泊まり保育を無事行うことができました。ひかり組では、何をしたい？何食べる？箸やコップは？畑で何つくる？雨が降ったら？…と、自分たちで考え話し合う時間を多くとっていました。やることが決まったら、裏山で薪を拾い、竹を切り出して箸や食器づくり。夕食で使う野菜は、畑で春から土づくりや手入れをしてきました。クッキングでは、米とぎ/ピーラー/包丁/かつお節削り/魚の串刺しなど、協力して取り組みました。家族と離れる経験から自立心や自信を育み、仲間と一緒に最後までやり切ることができました。キャンプファイヤーの光と熱と共に、大人になっても忘れない体験（原風景）になったことと思います。

念願の魚釣り　園庭で焼いて豪快にガブリ

９月　行事予定

2（土）　運動会（0 歳児）
29（金）　お月見会

10 月　行事予定

5（木）　歯科検診《2》
21（土）　運動会（1～5 歳児）
　　予備日 22（日）
23（月）　内科健診《2》

9/2（土）は、０歳児どんぐり組のうんどう会を行いました。いつもと違う様子に涙が出る子もいましたが、普段園で歌っている歌、体を動かして遊ぶ様子、保育者との関わりなどをご覧いただけたと思います。

あと５年もすれば、この子たちもひかり組のように成長するんだろうな、どんなクラスになってるかな、と思いを巡らせました。

【保育にできるのは、その子を一生支えるような原風景をつくること】

汐見：かつては地域に子どもを守ってやる存在がたくさんいて、地域での生活が子どもたちの教育の場でした。でも今は「外行って遊んでおいで」というのができない。だから、自然にやってこれたことを、今は意図的にやらなければいけないわけです。そこにスマホやゲームなども加わってきて。昔に比べて確実に、保育や子育てが難しくなっていると思います。実際、保育現場もその危機感を抱きながら、どうしていけばいいのか悩んでいます。

石井：大きくなって、不登校だとか対人関係でつまづいてネット依存になったりするような場合、小さいころからきちんとした人との付き合い方を知らないことが多いように感じています。逆の言い方をすれば、幼少期に人とけんかしたり人と深く関わり合ったりして、生身の人間としての信頼関係みたいなものがあれば、大きくなってから多少うまくいかないことがあっても、自分で回復する力を持っているんです。それを支えているのはきっと、その子の人間形成の根幹みたいなところにある原風景なのではないかな、と。

『エデュカーレ（第 117 号）』汐見稔幸/石井光太 対談 より